

松井 美帆

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授

#### 高齢者の自律性の評価と関連要因の分析

本研究の目的は Perceived Enactment of autonomy (PEA) 尺度日本語版を作成し、高齢者の自律性とその関連要因について明らかにすることである。PEA とは「自分自身のために、そして自分のニーズや目標に従って自由に行動や行為の過程を選択する能力を感じ、認識する状態」と定義され、自発性 (voluntariness)、個性 (individuality)、自主独往 (self-direction) の3つの要素から構成される。PEA 尺度は研究者らにより日本語に翻訳され、バックトランスレーションを経て本調査が行われた (N=220)。原版と同じ3因子31項目の信頼性は $\alpha = .93$ と高く、下位尺度の自発性、個性、自主独往については $\alpha = .75$ 、 $.86$ 、 $.78$ と内的整合性が確認された。妥当性については、PEA と Locus of Control において  $r = .255$  ( $p < 0.01$ ) と有意な相関を認め、構成概念妥当性が確認された。

高齢者の自律性と関連要因については、年齢、性別において関連を認めなかったが、主観的健康状態と自律性に有意な関連 ( $p < 0.001$ ) を認め、健康状態がよいほど自律性が高かった。